



しずおか愛護

No.47 (令和5年3月14日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



巻 頭 言

令和4年度から副会長に就任しました、あおばのさとの溝口です。健康維持と正しい姿勢を保つため月2回程度の運動を始めて1年半が過ぎました。レッスンの2日後には、ほどよい筋肉痛がやってきます。次の日に筋肉痛が来ないのが少し気になります。

副会長という重責を背負い、今まで参加してこなかった（避けてきていた）イベント「静岡オレンジマラソン大会」「愛護ギャラリー展」の式典に参加させていただきました。オレンジマラソン大会では、障害を持たれた方が懸命に走る姿に刺激を受けました。普段マラソンとは縁が遠い自分にとってはとても新鮮に感じられました。草薙陸上競技場という素晴らしい舞台で走ることが出来たらどんなに気持ちが良いだろうと思いました。また、多くの観客の声援を受けながら走る参加者の誇らしげな表情が印象的でした。彼ら彼女らはアスリートであり完全に主役でした。観客に多くの刺激と感動を与える素晴らしい大会だと感じました。学生ボランティアも多く参加されていて将来の福祉の担い手になっていただければと思いました。愛護ギャラリー展では、障害を持たれた方々の作品が多数展示されていました。普段、芸術を鑑賞することとは無縁の生活をしている自分にとっては新しい世界でした。絵画223点・陶芸33点・工芸91点・フリー10点がグランシップに展示され輝きを放っていました。日常の業務に追われている中、愛護ギャラリー展は非日常の世界を味わうことができました。自分の施設でも作品を創作してみようという思いが湧いてきました。改めて芸術活動のすばらしさを感じさせてもらえました。

さて、令和4・5年度委員会及び専門委員会では危機管理・権利擁護を担当しています。近年、自然災害が多く発生し静岡県内でも毎年のように被害がでています。会員施設でも多くの被害がでてしまいました。自然災害に対応していく難しさを感じます。危機管理では、危機管理/災害専門委員会と一緒に災害時相互支援実施要綱の円滑な活用を目指していこうと考えています。

またマスコミ報道で福祉施設の虐待のニュースが目立ってきています。障害者差別解消法や障害者虐待防止法が施行されても障害者を支援していく福祉施設で虐待が発生しているのが現状です。権利擁護では、権利擁護専門委員会と一緒に虐待が起こらないようにするための仕組みを考えていきます。様々な課題がありますが、焦らず少しずつ対応して行けたらと思います。

福祉協会の運営のことをほとんど知らない私で副会長という大役が務まるか不安でしたが何とか1年が過ぎようとしています。「明日死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学べ」と言われているように、今日を大切に生き、毎日が勉強のつもりで自己研鑽していきたいと思います。福祉の専門職として微力ながらも静岡県知的障害者福祉協会のお役に立てればと思います。みなさん、対面でお会いする機会には是非お声掛け下さい。今後ともよろしく願いいたします。



静岡県知的障害者福祉協会

副会長 溝口 弘志

(あおばのさと)

令和4年度施設長等研修会を対面方式で開催しました！

事務局長 増田吉則

静岡県知的障害者福祉協会では、会員施設の施設長等が施設の管理・運営に関する情報や地域福祉の動向等を収集するとともに、施設種別ごとの諸課題や今後のあるべき施設運営のあり方を議論することにより、施設長等の資質の向上を図り、もって施設利用者の処遇の向上に資するため、毎年度、施設長等研修会を開催しています。

コロナ禍のため、令和2年度、3年度はオンラインで開催してきましたが、総会や協会大会などもオンラインで開かれるなど、会員が実際に会う機会が失われていることから、本年度は3年振りに対面で開催する方針が年度当初に決定されていました。しかし、師走に入り、新型コロナウイルス感染症は第8波に突入、申込期限ギリギリまで判断に迷われた方も多かったと思います。直前でキャンセルという方がおられる一方で、参加できるようになった、と連絡をくださる方も多く、参加のタイミングが非常に難しかったようです。最終的には、92人の施設長・管理者の皆様にご参加いただきました。

さて、午前中は、社会福祉法人 佛子園 理事、Share 金沢 施設長の清水愛美（めぐみ）様を講師にお招きし、「ごちゃまぜのまちづくり」と題したご講演をいただきました。パワフルに元気よく話す清水様のお話は大変興味深く、あっという間に終わってしまいました。ホームページを見ただけではわからないことがずっと頭に入ってくるそんな印象を受けましたが、皆様はいかがでしたでしょうか。

アンケートでは、「何度聞いても、そのたびすごいなと再認識する。」「ごちゃまぜのまちづくり、シェア金沢を見学したくなりました。」「地域との結びつきがとても強く、地域全体が活性化している様子がよくわかる。」「いろいろな人との関わりを大切にしながら地域コミュニティを再生していくことの機動力など、勉強になりました。」など、これからの施設運営へのヒントを感じた施設長さんも多かったようです。

午後は施設種別ごとの部会を開催しました。6つの分科会、7会場に分かれての部会は、初対面という方も多く、とても有意義だったようです。アンケートでも、「対面は相手の表情を見ながらコミュニケーションが図れる。」「対面だと施設の小さな課題や悩みなどを直接話すことができよかった。」「施設長になってから初めての対面での研修会になりました。やはり人と人が関わり合う事に対面での良さがあると思います。ウェブでは伝わらない雰囲気を感じとることができました」「久々の対面での集まりは、交流しやすく、意見交換ができて良かった。」など、概ね好評でした。一方で、やむなく欠席された方々からは、Zoom 併用を求める意見をいただきました。WEB参加のメリットもありますので、ケースバイケースで使い分けることも必要かと感じました。

<研修会プログラム>

- 1.会場 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
11階 会議ホール 「風」 ほか
- 2.日程及び研修内容 令和5年1月24日（火曜日）
10時00分 開会、会長挨拶
10時15分～12時10分 講演
演題：「ごちゃまぜのまちづくり」
講師：社会福祉法人 佛子園 理事
Share 金沢 施設長 清水 愛美（めぐみ）氏

< 昼食休憩 >

13時00分～ 各部会による情報交換等（終了次第、散会）

3.参加状況

部会名	参加人数
児童発達支援部会	17
障害者支援施設部会	22
日中活動支援部会	26
生産活動・就労支援部会	15
地域支援部会	5
相談支援部会	7
計	92人



<挨拶をする池谷 修 会長>



<講師のShare 金沢 施設長の清水愛美さん>



<講演風景 (Share 金沢施設長の清水さん) >



<講演風景 (質疑応答) >



<児童発達支援部会（入所）>



<児童発達支援部会（通所）>



<障害者支援施設部会>

<日中活動支援部会>



<生産活動・就労支援部会>



<地域支援部会>



<相談支援部会>

職員研修所講座について

研修専門委員会担当理事 松ぼっくり 山田宗克

令和4年度の研修所講座は下記の通り実施しました。コロナ禍による影響で、時期によっては参加者が思うように集まらない講座があったり、対面ならもう少し盛り上がるのに残念という講座もありました。又、リモート研修の方が気楽に参加できる面もありますが、やはり対面で直接話をして参加する形の方が、充実していて良かったという声が多く聞かれました。

令和5年度については、各部会から参加している研修委員で、現在の研修所講座に実際に参加してみたい講座を進める予定です。加えて、他団体が開催している講座を紹介したり、「みらーと」さんのような関係団体と連携したり、施設種別支援スタッフ委員会と協力して、デジタル技術を取り入れた「ICTスキルアップ講習会」も開催していく予定です。今後も、タイムリーで職員の皆さんが聞きたい、知りたい、話してみたいものを取り入れていきたいと考えています。

～令和4年度職員研修所講座実施報告と令和5年度に向けての予定～

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永博文氏	「障害のある人の社会的自立のための行動形成」というテーマで実施。コロナ禍で9/2, 9/8, 9/9の3日間ZOOM実施。参加者9名。令和5年度は永年担当していただいた福永先生から志村浩二先生への講師の変更と内容をリニューアルする予定です。
医療・看護講座	山倉慎二氏	「知的発達障害者と医療」テーマで6/13, 7/11, 8/16の3日間ハイブリッド方式で開催。参加者33名。新任職員だけでなく幅広い階層の人が参加しています。
カウンセリング講座	杉本好行氏	今年度は「人をどう理解し、人にどうかかわるか」というテーマで11/11, 12/16の2日間で実施。申込者10名、修了者3名。参加者の満足度は高いのですが、対面が基本でコロナ禍の影響が大きく、R5年度こそ通常の状態で開催したいものです。
障害特性を理解する講座 (児童期)	大石明利氏	「障がいのある人の暮らしと支援」(児童期)というテーマ、対面で10/31に実施。参加者15名。問題行動を愛着の大切さという面から捉えた内容です。
障害特性を理解する講座 (成人期・高齢期)	高橋和己氏	「知的障がいのある人の暮らしと支援～制度の変遷と事例を通して支援を考える」テーマで11/18にZoomで実施。参加者29名。制度の流れと現場の施設長さんの助言が聞ける講座で、来年はぜひ対面で意見交換したいです。
障害のとらえ方講座	小林不二也氏	今年度は「障がい者をどうとらえ、社会でどう支えていくかを考える」テーマ、対面で実施。参加者32名。障がい者を取り巻く環境など、社会的な面から考えて活発な意見交換がありました。
発達障害の理解講座	弓削香織氏	「発達障害の理解と支援」というテーマでZoomで実施。後半は具体的な演習を実施。参加者29名。来年度は2回開催で、具体的な演習を多く取り入れていきたいです。
性に関する講座	片岡佳美氏	「学齢期こどもの心と体の成長」というテーマで9/22に対面で実施。例がない貴重なお話。参加者11名。来年度は成人期の課題も入れてお願いしていきます。
権利擁護啓発講座	鶴田安弘氏	権利擁護専門委員会主催で11/14対面で開催。講義、事例報告、グループワークという流れで実施しました。参加者42名。

世話人等業務セミナー&合同説明会

地域支援部会長 コミュート浮島 片山昌俊

「世話人等業務セミナー&合同説明会」が、2月25日(土曜日)にグランシップで開催されました。このセミナーは、障害のある方々が、それぞれの希望に応じた自分らしい生活を送ることができるよう、生活の場となるグループホームの整備を進めるために欠くことのできない、世話人や生活支援員などを確保することを目的に、静岡県が主催し、静岡県知的障害者福祉協会が受託して実施したものです。

会場には、静岡市内や焼津市のほか、富士市や磐田市などから、25人の皆様が来場されました。

セミナーは、静岡県知的障害者福祉協会 理事で地域支援部会長の片山昌俊の司会で開会し、はじめに、静岡県健康福祉部障害者支援局の石田雄一障害者政策課長が主催者挨拶を行い、続いて、片山理事による趣旨説明、そして、小山町にある社会福祉法人ミルトス会が設置するグループホーム「クララ寮」の江藤信一管理者が、知的障害者の特性及びグループホームの概要、世話人の業務などについて説明しました。

質疑応答では、

「世話人には運転免許証が必要か。」

「グループホームでのイベントはどのようになっているのか。」

「雇用形態は？」などといった質問が出され・・・

片山理事や江藤管理者が・・・

「実際の施設ごとで世話人さんの業務は異なるので、それぞれの施設で確認してください。」

「季節ごとのイベントは法人全体で行い、誕生会などはグループホーム単位で行うところが多いと思います。」

「世話人業務は、朝だけとか夕方だけなど、就労時間が限られています。多くの職場では、パートや契約職員という身分だと思いますが、勤務時間によっても雇用形態は異なりますので、個々の施設で確認をしてみてください。」などと回答しました。

その後は、会場内の4つのブースに分かれて、現場職員の方からの説明を聞いたり、県内グループホームの紹介動画などを視聴したりしました。

今回、静岡県知的障害者福祉協会として、初めて開催しました「世話人等業務セミナー&合同説明会」のため、いろいろと不手際もあり、来場された皆様にはご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。

なお、障害のある方々への支援を行うグループホームや施設で働きたい、見学したい、などをご希望の皆様には、お住いの地域にあります会員施設・事業所をご紹介させていただきますので、お気軽に事務局までご連絡ください。



第31回愛護ギャラリー展を終えて

愛護ギャラリー展専門委員会担当理事 サポートセンターコンパス北斗 飯塚友紀

令和4年12月13日の作品搬入及び審査会・講評会から始まり、14日展示飾りつけ、15日開会式、19日まで一般公開及び搬出という日程で開催しました。357作品の出展がありました。ご来賓の方々にもご出席を賜り、励ましのお言葉を直接頂き、受賞者の方々も大変嬉しそうにされていました。改めまして、沢山のご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

今回は特に3つの大きな取り組みを行いました。一つ目は、愛護ギャラリー展記念サイトの作成。二つ目は、ワークショップの開催です。この二つは、静岡県文化芸術コーディネーター事業の皆様のご尽力を頂き、素晴らしい成果がありました。心より感謝申し上げます。

もう一つは、実行委員の負担軽減や協力員を多くすることで行事参画を促す取り組みとして、協力員の増員を行いました。班長や事務局の方にマニュアル作りをご協力頂き、沢山の協力員の方々にスムーズにお手伝い頂く準備を行い、また多くの施設の方のご協力を頂き、例年よりも実行委員の負担を軽減し、行うことが出来ました。今回参加アンケートの結果も掲載されますので、今後も実行委員・協力員へのご協力を頂きやすくなるようにしていきたいと思っています。

過日行われた反省会では、次のギャラリー展をより良くしたいという沢山の提案があり、32回のギャラリー展開催に向けて、私自身がとてもワクワクしています。

皆様の作品をより多くの皆様にご覧頂けるような取り組みを実行委員で行っていく予定です。32回の愛護ギャラリー展に多くの作品が寄せられることをお願いし、31回愛護ギャラリー展のご報告とさせていただきます。

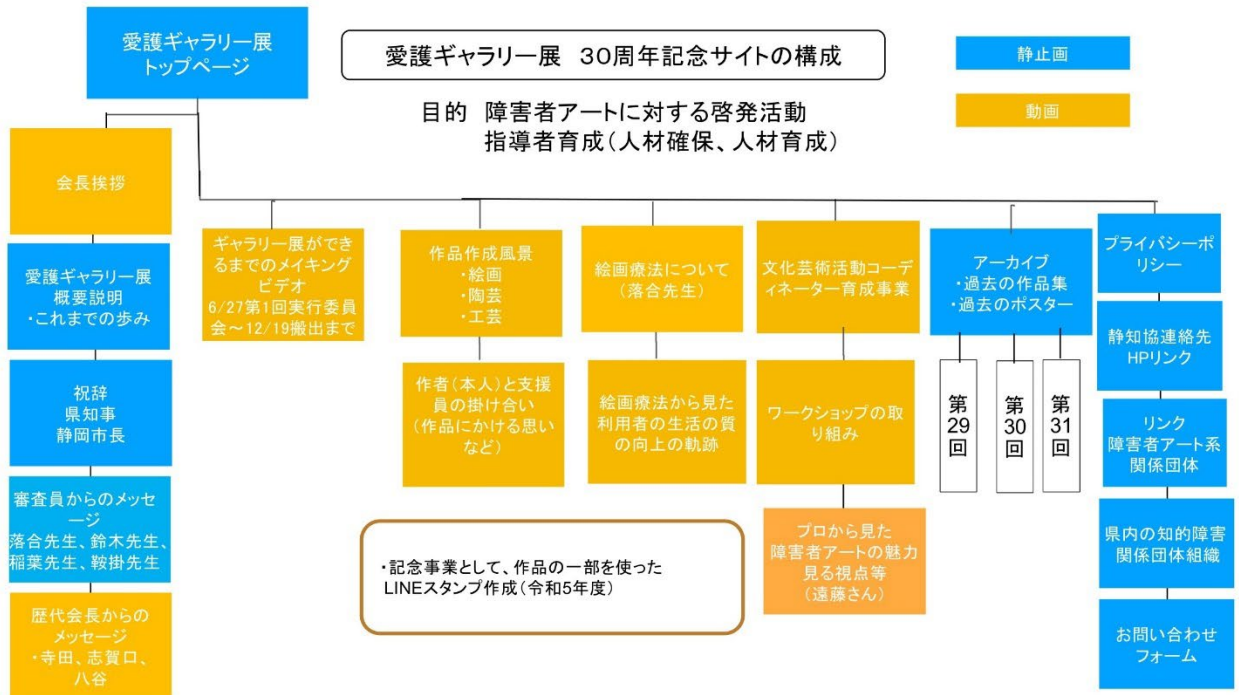
第31回愛護ギャラリー展の様子については、QRコードから「愛護ギャラリー展30周年記念サイト」にアクセスしていただければご覧いただけます。



愛護ギャラリー展 30周年記念サイトが

3月14日（火）にオープンしました！

アートを通して利用者さんと職員さんが寄り添ってきた30年の軌跡、そして今の活動を紹介する今年度の愛護ギャラリー展の取り組み、さらには、未来に向けての活動として、すでに発進しているコーディネーター育成事業の取り組みといった感じの3部構成で、大変見応えのあるサイトになりました。関係者だけでなく、世界中の皆さんに見てもらえることを願っています。拡散よろしくお願ひします！



愛護ギャラリー展の
概要・これまでの歩み

1966年より、知的障害者施設等における日頃の文化・芸術活動の成果を広く公表し、障害者への福祉に対する関係者の理解と支援を促し、併せて施設利用者等の意識と施設職員の士気の高揚を図るため、知的障害者等の絵画等の作品を展示し、優秀作品の表彰を行っています。

NEWS TOPIC

- 2023.3.14 愛護ギャラリー展周年記念特設サイトを公開いたしました。
- 2023.3.14 愛護ギャラリー展周年記念特設サイトを公開いたしました。
- 2023.3.14 愛護ギャラリー展周年記念特設サイトを公開いたしました。

「文化芸術活動コーディネーター育成事業の取り組みについて」

文化芸術活動コーディネーター育成事業 ファシリテーター
アフターケアセンターくさぶえ 大塚信乃

文化芸術活動コーディネーター育成事業は、令和3年度より開始されました。

この事業の目的は、絵画や音楽などの療育活動の指導者を育成する事と、事業所の中でのリーダー的役割を持つ職員の育成を図ることもひとつとしています。育成期間は2年。この事業は初めての試みということもあり、まずはアート系（ベースは絵画療法）を対象に協会加盟事業所より受講者を募ったところ、絵画療法担当職員を中心に7名の応募があり令和3年5月にスタートしました。

講座は将来的には、絵画療法講座の講師として巣立つことが最終目的である為、講義内容は絵画指導に必要な専門的知識を広めること、又技術・知識を伝える技法を習得する事を視野におきカリキュラムを作成、各回、多方面より講師を招きご教授頂き学ぶことと、グループワークによる振り返り事例検討を重ね、より実践的な取り組みを行っています。第1回は落合英雄先生による「文化芸術活動の基本事項・理念・意義」第2回はみら〜と遠藤次朗氏による「コーディネーターの役割について」第3回は静岡県立美術館学芸員秦井良氏による「学芸員のお仕事について～研究・展覧会の企画や流れの視点～」と3氏よりそれぞれの立場、視点から語られる「絵画」との向き合い方のお話しは、コーディネーターとして今後活動していく上において貴重な内容でした。

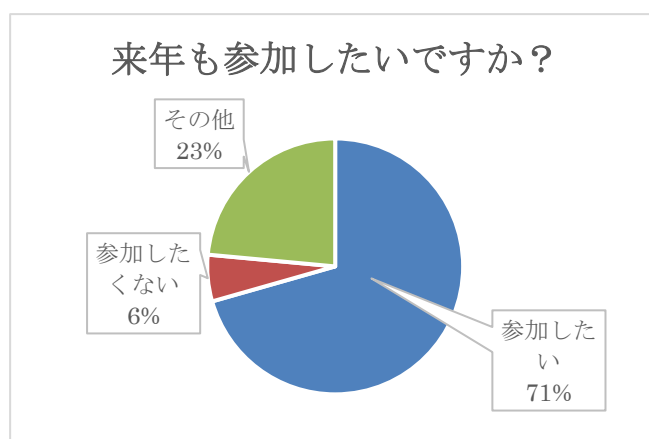
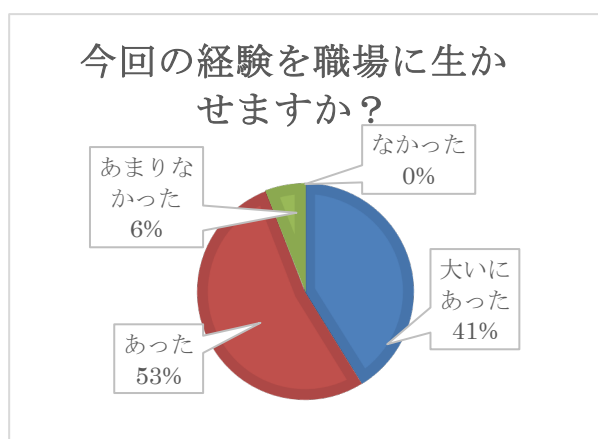
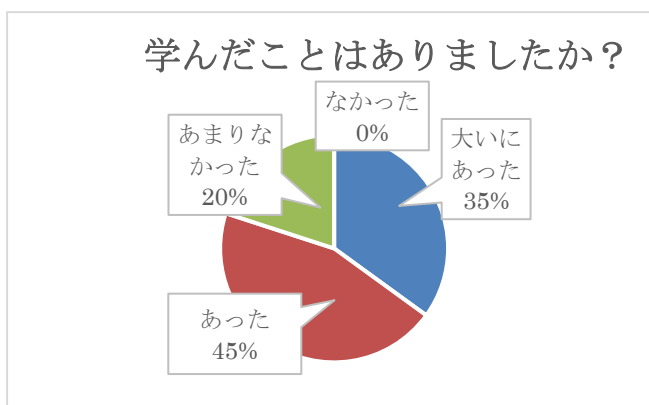
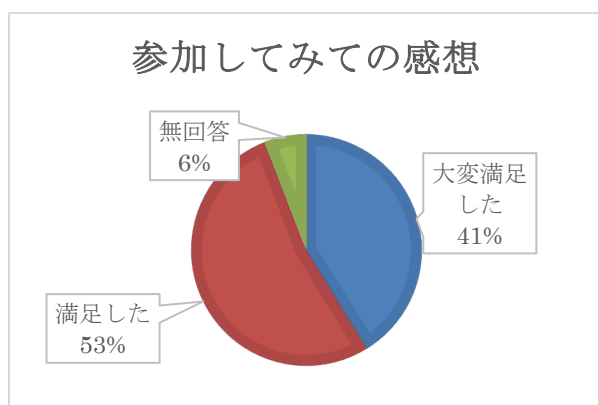
本来であれば、令和3年度の後半で愛護ギャラリー展の企画運営を演習のひとつとして取り組む予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大から、講義も一時休止、令和4年6月より再開となりました。講座2年目においては当初計画していた初年度後半で実施予定であった「愛護ギャラリー展」企画運営を中心に取り組むこととし、2年目において予定されていた「絵画療法講座」のカリキュラム作成については令和5年度の取り組みとし、コーディネーター育成事業そのものは1年延長されることとなりました。令和4年度の「愛護ギャラリー展」の企画では新しい取り組みとしてワークショップの開催を考案。利用者さんの絵をステんシルのモチーフに活用する提案や、講師の方と連携を図りながら当日実務を遂行することは、今後イベント等の企画を行う上で大切なこととは何かを学ぶ良い演習の場となりました。当日参加した受講生においては、当日体感したワクワク感や充足感をどのように伝えていくのか、今後「絵画療法講座」のカリキュラムを作成していくにあたっての課題も明確となりました。

そもそもこの「コーディネーター育成事業」を立ち上げるに至った背景には、協会が実施していた「療法講座」が閉講、しかし、絵画や音楽等の活動を通し日々の利用者支援に必要とされる視点や技術も習得できることも大きな要因であったことから若手職員の研鑽の場として復活させたいと云う思いがあります。ところが、いざ復活させるにも講師の担い手がないとの現状から、経験職員の中から育ててはと云う発想に至りました。本講座を開始して2年、受講生にもようやく自分達が担う役割について理解が出来てきたようにみて取れます。令和5年度最終年において、具体的に自分達が伝える立場として講座内容を構築していく作業へと入っていきます。その作業を通してコーディネーターとして次世代へ何を伝えるのか、どのように伝えるのか、を学び考え、令和6年度の「絵画療法講座」開催にむけて歩んで行けたらと思います。

そして、この取り組みが次の分野の芸術活動コーディネーター育成にと繋がる糧となるよう最終年度取り組んで参ります。

第31回愛護ギャラリー展

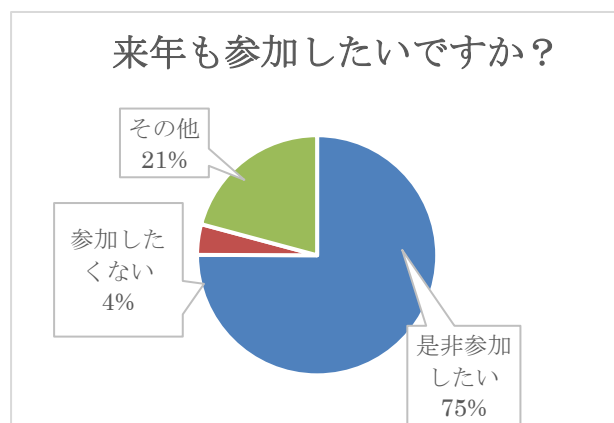
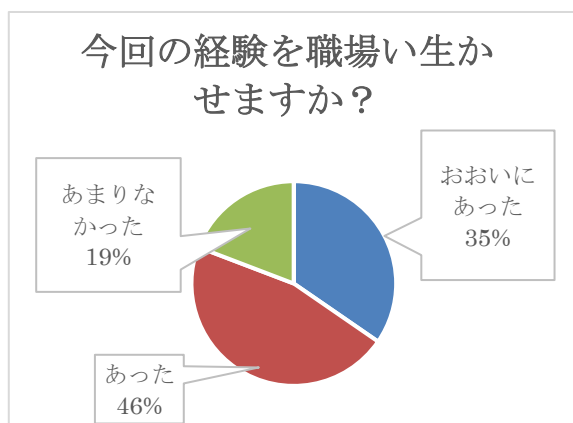
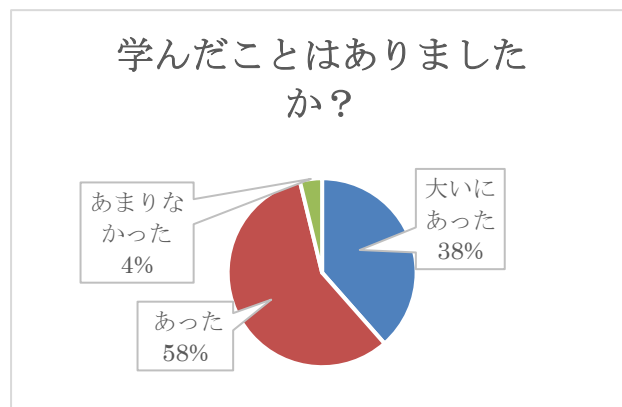
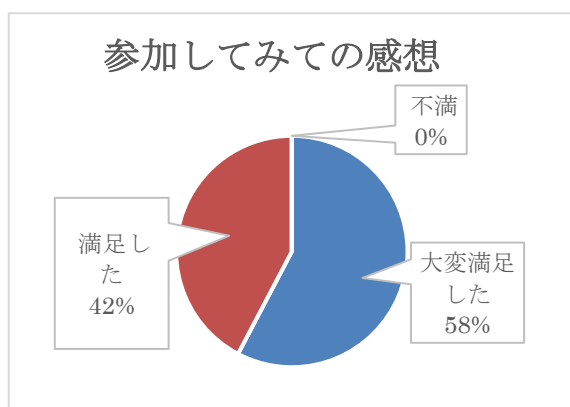
実行委員・協力員アンケート



- 普段交流がない他事業所の人と話すことで、様々な考え方に触れ、また通常の支援の手法の参考になった（多数意見）。
- とにかく楽しかった。来年も上司の許可があれば参加したい（多数意見）
- 普段なかなかできないイベントスタッフとして他事業所の人と協力しながら1からイベントを企画運営することで達成感を味わえ、表彰式でのアテンドや受付、搬出入の流れ作業など、ギャラリーの業務から通常業務に落とし込めるヒントをいくつも学べた。
- アート活動への学びや同じ思いの仲間作りの大切さを学んだ。
- 今年初めて参加したので、一歩引いてしまったが、来年は二歩も三歩も踏み込んで参加したい。

第35回静岡オレンジマラソン大会

実行委員・協力員アンケート



- 他施設の職員と交流ができ大変有意義だった（多数意見）
- 外部の方と関わり、視野を広げられた。
- とにかく楽しかった（多数意見）
- 選手の姿に感動し、普段関わることのない方と一緒に運営ができ大満足。
- 今回の経験を日常の支援現場にフィードバックしたい。
- 人材育成の場として活用できると思った。
- 環境を整えることで、選手が気持ちよく安心して参加できるのを見て、普段の現場でもそんな支援をしたい。
- 相手に分かりやすい言葉や話す速度など、これからの支援に役に立つことを学べた。